教皇

全世界に向け復活祭メッセージと祝福

キリストは世界の最も美しい若さ

典礼暦で4月21日、カトリック教会は2019年度の復活祭を迎え、教皇フランシスコは、ローマと全世界に向けメッセージと祝福を送った。20日夜、復活徹夜祭をバチカン（ローマ教皇庁）の大聖堂で行った教皇フランシスコは、明けた21日午前、復活の主日のミサをサンピエトロ広場で捧げ、同日正午、大聖堂の中央バルコニーから、復活祭メッセージと、ローマと全世界に向けた教皇祝福「ウルビ・エト・オルビ」を送った。

復活祭メッセージの内容は次のようなもの。

主の復活の朝を迎え、わたしは皆さん一人ひとりに、最近発表された、特に若者に向けた「使徒的勧告」の冒頭の言葉をおくりたいと思います。

「キリストは生きておられます。キリストはわたしたちの希望であり、この世界の最も美しい若さです。キリストは生きておられ、あなたが生きることを望まれると！」

キリストは復活された御顔の光を見せられ、試練や苦しみ、悲嘆の中にある人々を見捨てることはありません。生きておられるキリストが、愛するシリアの人々の希望となりますように。長引く紛争の犠牲者であるシリアの人たちの状況に対し、わたしたちは諦めや無関心にさえ陥る危険があります。人道危機に立ち向かい、レバノンやヨルダンをはじめとする近隣国に逃れた、避難民の安全な帰還を促さなければなりません。

イエメンの飢えと戦争に苦しむ人々、特に子どもたちに思いをはせます。主の復活の光が、イスラエルとパレスチナをはじめとする中東のすべての治世者と国民を照らし、多くの苦しみを和らげ、平和で安定した未来の構築を励ましますように。

リビアの流血の武力闘争が停止されますように。同国ではここ数週間、無防備な人々が再び犠牲になり、多くの家族が避難せざるを得ない状況です。当事者双方に、暴力ではなく対話を選び、十年近くにわたる紛争と政治的不安定の傷を再び開くことがないよう呼びかけたいと思います。

生きておられるキリストが、ご自身の平和を、愛するアフリカ大陸全土に与えてくださいますように。ブルキナファソ、マリ、ニジェール、ナイジェリア、カメルーンなどの国々では、いまだ社会的緊張や、紛争、暴力的原理主義が、治安の不安定と、破壊、死をもたらしています。わたしの思いはスーダンにも向かいます。政治不安の中にある同国で、すべての嘆願が声を持ち、長く切望される同国の自由と発展と幸福のために、皆が働くことができるよう願います。

復活の主が、南スーダンの政治・宗教指導者らの努力を見守ってくださいますように。

現在も続く闘争に苦しむウクライナ東部の人々が、慰めを得ることができますように。

復活祭の喜びが、困難な政治・経済状況の影響を受けているアメリカ大陸の人々の心を満たしますように。特にベネズエラの人々を思います。同国では、長引き、深刻化する危機のために、多くの人が尊厳ある安全な生活を営むための最低条件さえ事欠いています。

ニカラグアで行われている、すべての国民のための、一刻も早い平和的解決と和平への努力を照らしてくださいますように。

キリストは生きておられます！　キリストは、わたしたち一人ひとりのため、そして全世界のための希望と若さです。キリストにわたしたちを新たにしていただきましょう。主のご復活、おめでとうございます！

（CJC）

北京市で国際園芸博覧会が開幕
バチカンも出展

中国政府は4月28日、北京市北西部の延慶区で国際園芸博覧会の開幕式を行った。11カ国の指導者や特使のほか、国際機関の責任者、各出展側の代表、園芸界の商工業界の専門家ら約900人が開幕式に出席した。中国政府は期間中、延べ1600万人の入場者を目標に掲げている。

習近平国家主席も出席し「我々の自然環境を改善することが持続可能な経済発展につながる」と強調した。そのうえで「各国が協力してようやく気候変化や海洋汚染などの問題に対応できる」と述べた。

会期は29日から10月7日まで。日本を含む約110国・国際組織が出展する。バチカン（ローマ教皇庁）も中国の招待を受け、約200平方メートルのパビリオンを設け、薬草について記した古文書などを展示する。園芸博出展は初めてで、文化評議会議長（文化庁長官に相当）のジャンフランコ・ラバージ枢機卿も参加する。教皇の側近とされる枢機卿が国交のない中国を公式に訪問するのは異例。

習指導部がバチカンと早期の正式和解をめざすのは台湾の統一問題が念頭にあるためと見られ、園芸博への招待はその一歩と位置づけられる。中国は台湾の外交関係の切り崩しを進めており、台湾の友好国は17カ国まで減った。太平洋の島国や中南米がほとんどを占め、欧州で唯一、外交関係を結ぶのがバチカン。

中国外務省の陸慷報道局長は17日の記者会見で「中国とバチカンは話し合いを続け関係改善を進めている」と強調した。司教の任命権について昨年9月に暫定合意したことを受け、関係改善を示す動きとも見られる。

そこには「地下教会」の問題を封じ込めたいとの思惑も感じ取れる。中国とバチカンは2018年9月、中国内の司教任命の主導権問題を巡り「暫定合意」した。

カトリック・ミラノ外国宣教会（PIME）運営の『アジアニュース』によると、ラバージ枢機卿は「今回の訪問は外交関係の改善に向けた対話を続けるとの姿勢を示すもの」とはしたが、「園芸博の間に起こると予想されることは、文化的に異なる種類の対話」と言う。

「対話は、宗教の枠の中でだけでなくアート、文化、さらには科学的研究の領域でも、対話可能な雰囲気を作りだすこと」と慎重な構えを見せた。

（CJC）

スリランカの連続爆発テロ
自爆犯は「イスラム教徒の兄弟」
警察筋

スリランカで、イースター（復活祭）の4月21日に発生し、320人以上が死亡した連続爆発事件で、イスラム教徒の兄弟2人が、ホテル2カ所で別々に自爆攻撃を実施する役割を果たしていたと、複数の警察筋が23日、AFP通信に明らかにした。

兄弟は中心都市コロンボで香辛料を扱う富裕な商人の息子で、『シャングリラホテル』と『シナモン・グランド』ホテルでそれぞれ自爆攻撃に及んだ。

また一連の攻撃で4カ所目のホテルも標的とされていたが、この攻撃は未遂に終わった。

兄弟の氏名は公表されていないが、いずれも20代後半。家族で「細胞」を構成、さらに、国内のイスラム過激派組織『ナショナル・タウヒード・ジャマア』の主要メンバーだという。

今回の攻撃について、イスラム過激派組織『イスラム国』が犯行を主張しているが、スリランカ政府は事件が『ナショナル・タウヒード・ジャマア』によるものとしている。ニュージーランドのクライストチャーチで発生し、50人が死亡した銃乱射事件の「報復」だったとの見方を示す閣僚もいる。

AFP通信報道によると、スリランカ政府は24日、襲撃計画を示す情報があったにもかかわらず事件を阻止できなかったという「重大な」過失があったと認めた。

スリランカの警察幹部が11日、外国情報機関からの情報として、国内のイスラム過激派組織『ナショナル・タウヒード・ジャマア』（NTJ）が「高名な教会」を狙った自爆攻撃を行う可能性があると通達していた。

米CNNテレビは、インドの情報機関が事件の数週間前に「異例なほど具体的な」情報を伝えていたと報道した。情報の一部はインド当局が拘束しているイスラム過激派組織「イスラム国」関連の容疑者からのものだったという。

しかしスリランカ政府によると、この情報は首相や主要閣僚には伝えられなかった。ルワン・ウィジェワルダナ国防担当相は24日の記者会見で「情報の共有に重大な過失があった」と認め、「政府は責任を取らなければならない」と語った。

ウィジェワルダナ氏によると、実行犯の1人は英国留学とオーストラリアでの大学院留学を経てスリランカに帰国していた。「実行犯の大半が高学歴で、中流や上流中産階級の家庭の出身であり、経済的には非常に自立し、家族は経済的にかなり安定している。この事件での不穏な点だ」という。

連続爆発事件の主犯格と見られていた男が、最大都市コロンボのシャングリラホテルの爆発で死亡していたことが分かった。マイトリパラ・シリセナ大統領が4月26日、記者会見で明らかにした、とAFP通信が報じている。

男は、スリランカのイスラム過激派組織『ナショナル・タウヒード・ジャマア』（NTJ）の指導者、ザフラン・ハシム容疑者。事件後にイスラム過激派組織『イスラム国』が犯行を主張した際、公開した画像に実行犯として登場していた。

大統領によると、40代とみられるハシム容疑者はホテル襲撃を指揮し、自爆犯とされる男と一緒にいたという。これらの情報は軍の情報機関がもたらしたもので、防犯カメラ映像などに基づいているという。

4月28日、スリランカのカトリック教会の指導者、コロンボ大司教のマルコム・ランジス枢機卿が、事件について「人間性への侮辱」と非難した。AFP通信が伝えている。

新たな攻撃へ懸念が続く同国では公開のミサや礼拝が中止されている。同枢機卿は内輪でミサを執り行い、その模様がテレビで生中継された。

枢機卿は「21日に起きたことは、大いなる悲劇であり、人間性への侮辱だ」とし、すべての犠牲者に敬意を表する印として、他者に親切心を示すよう、信者らに促し、さらに「この国において、分断ではなく、平和と共存、相互理解が実現するよう、われわれは祈る」と話した。

（CJC）

教皇、両指導者の靴にキス
南スーダン和平交渉の席上で
バチカン

【カイロ・東光興】ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇（82）は4月11日、バチカンで、南スーダンのキール大統領と同国の反政府勢力を率いるマシャル元副大統領と会見し、両者に和平の実現を呼びかけた後、両者に歩み寄ってひざまずき、靴にキスをした。

2013年以来、5年以上悲惨な内戦が続き、40万人以上が犠牲となり、国民の3分の1に当たる1200万人が避難となっている南スーダンの内戦終結を願っての行動と見られるものの、教皇の異例の行為に感動が広がっている。

南スーダンの両指導者は、同国の和平交渉を巡る話し合いをバチカンで行っていた。教皇は「私はあなた方に兄弟として平和のままであることを、2人が私の心と共に前進することをお願いする。多くの問題があるだろうが、それらの問題は我々に勝つことはない。あなたがたの問題を解決しましょう」と語りかけた。

教皇は慢性の足の痛みをこらえ、側近の助けを借りながら、2人の前にひざまずいた。

バチカンではスタッフらが、南スーダンの指導者らが一体となり、統一政府をつくれるよう、24時間の祈りを捧げていた。

教皇はまた「南スーダンの国民は内戦によって疲弊しきっている。この若い国家を、正義によって再建するのは指導者らの責務である」とも述べ、両指導者の指導力に期待感を表明した。

1983年、北部のアラブ系イスラム教徒主導のスーダン中央政府がスーダン全土にイスラム法を導入、これを機にキリスト教徒が多い南部との内戦に突入した。南部は有力黒人民族ディンカなどがスーダン人民解放軍（SPLA）を結成、ゲリラ闘争を展開、2005年1月に包括和平合意が結ばれ、200万人が死亡した内戦は終結した。

2011年1月実施の国民投票（独立賛成98・83%）を経て、同年7月9日、「南スーダン共和国」としてアフリカ54番目の独立国に。7月14日には国連総会で193番目の加盟国として承認された。しかし、初代大統領キール氏は13年7月、マシャル副大統領と全閣僚を解任、12月以降内戦状態に陥った。16年4月、挙国一致政府樹立が図られたものの失敗、現在に到っている。

カイロで考えたイスラム ⑮

◆連載◆

在カイロ・ジャーナリスト　鈴木真吉

スーフィーの回転舞踊

古典スンニ派思想は、イスラム思想史上最大の思想家とされるガザーリーの出現によって完成したとされる。彼の思想に重大な影響を与えたのが、スーフィズムと呼ばれるイスラム神秘主義である。以後、3回にわたりスーフィズムの流れを紹介しよう。

スーフィズムについて井筒俊彦氏は「愛欲煩悩に縛られた現世の生活から離れ、罪悪深重の我に対する懺愧痛恨の裡にこの世の一切の桎梏を断って、人里離れた山野に隠栖し、厳粛な規矩制戒によってひたすら永遠の世界を求め、霊魂の救済を獲ようとする隠遁者の生活様式を意味するもの」で、原意は修道苦行の道だったとした。

それがアッバス朝前期に新プラトン思想やグノーシス的秘儀宗教、インドの宗教哲学、仏教などの影響を受けて、行者たちが体験を理論化、行を転じて知となし、思想的に発展するようになったと分析している。

イスラム神秘主義、スーフィズム

終末的ビジョンから始まったイスラム教が、どこで神秘主義と交わるのか？　井筒氏は以下のようにその出会いをまとめている。預言者ムハンマドの宗教活動の前半期の章句を根本的に特徴付けているのは、「審判の主」に対する深い懼れの情である。即ち「主のみ前に震え、おののく者こそ真の信者」で、そこでは正義の神に対する「恐怖」と「信仰」とは同じ意味（しほ）み、色褪せて、やがて跡なく消え去るにも似る」とある。現世のはかなさを知らず、物質的快楽に価値を見出しているような人々に対する激怒だった。

ところがムハンマドが西暦622年にメディアに移動してからは、イスラム教を取り巻く環境が好転し、ムハンマド自身が意外とするほどにイスラム教は急速に隆盛の一途を辿り始める。それに従い、啓示の内容も次第に積極的現世肯定的となり、さらには政治的性格すら帯びるようになった。荒涼たるアラビア砂漠に発生した一宗教が、100年もたたずして、西部アジアの主要な文化諸国をことごとく席巻し、ついにサラセン大帝国を形成したのだ。

この武力征服成功の後を受けて西暦661年、シリアの都ダマスカスに成立した最初のウマイヤ朝は、その精神において物質主義的、現世的であり、人々は神への懼れを忘れ、ひたすら現世の快楽を追い求める有様だった。世界的文化となったことで、いよいよ現世的になったのだ。

この時、伝統的な信仰心を持ち、あさましい世の成り行きを、激しい怒りをもって見守っていた敬虔な人々の間に、期せずして精神主義運動が起こった。これが来世主義で、地上の栄耀栄華を嫌気し、世を遁れ、山野に隠れ棲み、永遠なるものを求め、密かに禁欲苦行の生活をするようになる。イスラム神秘主義の始まりだった。

反世俗的精神主義の運動は、ウマイヤ朝の初期、イラク地方、ことにクーファの都を中心に発展し、多くの行者が出現する。当時は修道院制度もなく、修道生活の基準も確立されていなかったが、内面的にはコーランの教えのままに審判の日を懼れ、罪悪の意識、神の意思に対する無条件の服従を特徴としていた。

ところが、イスラム諸国の都市の生活が物質的、現世的になり、ウマイヤ家が滅び、アッバース家の時代に入っても、権力闘争や社会の腐敗が絶えなかったことから、数千人の男女が、来るべき神罰の恐怖に駆られ、続々と世を捨て、隠遁生活に入った。この頃には修道生活がようやく組織化され、一定の修行道ともいうべきものが確定される。その組織化に大きな貢献をしたのはキリスト教の修道者たちであった。

スーフィーという名称がイスラムの隠者たちに適用されるようになったのはこの頃で、アラビア第一の歴史家として有名なイブン・ハルドゥーンは「歴史学序説の第一節で、回暦第二世紀に入り、現世の愛が世を支配し、大多数の人が現世の流れの大渦巻きに巻き込まれて行った時、かえってある人々はこのような現世的快楽の無意義を痛感し、身を引いて敬虔な勤めに専念するに至った。かかる人々を世にスーフィーと呼ぶ」と言っている。

スーフィーが本格的に組織化され始めたのは8世紀末で、ところはクーファとその付近一帯である。彼らの生活は禁欲的修行道の実践で、世俗的要素を脱ぎ棄て、いわば素っ裸になって神に面し、肉欲・情欲の誘惑を退けることによって現世の罪のわなを超絶しようとする、否定道の実践だった。

ムハンマドが最多の名前
ノルウェーの首都オスロで

【ヘルシンキ・井上善文】2018年、首都オスロ市では最もポピュラーな男の名前がムハンマドとなり、08年以降11年間にわたって命名された名前のトップの座を占めていることが、この度発表された。

これは、ノルウェーの出生率が史上最低になっている一方、特にノルウェーの大きな都市におけるイスラム教徒の移民コミュニティ人口が増加していることを反映したもの。オスロ市では国内最大数の移民が住んでおり、62万4千人の住民のうち約19万人が移民か移民二世で、人口の約31%を占めている。そのうちイスラム教徒はオスロ市の人口の約12・7%。ノルウェーのイスラム教徒の多くはスンニ派で、パキスタン出身が最も多く、次いでソマリア、イラク、モロッコで、それぞれのコミュニティを築いている。

また、約3千人が近年、イスラム教に改宗したこともあり、ノルウェーのイスラム教徒の数はさらに増加し、2050年には220万人に達する可能性があるとされている。

一方、キリスト教文化が崩れていくことを心配する声も出始めているが、現在、市民の多くはイスラム教徒に対して寛容さを示している。

《 サントリー 》

《 アサヒ 》

《 コスモフーズ 》

—ご紹介下さい—

ちょっとしたスペースがあれば設置できます。（場所の提供だけで…）
情報をお待ちしております。まずは当社へお電話を！

ご紹介して頂いた方には（北海道～九州）
ビッグ紹介料進呈！！

株式会社 コスモフーズ
〒331-0804さいたま市北区土呂町 1-46-9
TEL 048-651-4273
FAX 048-651-4142 本社、自販機紹介担当まで